

22年9月議会

質問

- 1、築50年の乙女大橋の架け替えについて
  - ① 掛け替えを県に要望できないか。
2. 市民生活行政について
  - (1) 交通安全灯及び地域防犯灯について
    - ① 経費削減を目的にLEDへ切り替えができないか。
3. 消防行政について
  - (1) 消防団の消防ポンプについて
    - ① 可搬式ポンプを軽自動車ポンプ車に切り替えできない

まず、先日行われた小山サマーフェスティバルですが、ことしも盛況に開催されたこと、またオープニングカーニバルに開催された灯の舞が、祇園城通りをパレードできたことに対して関係者の皆様に感謝を申し上げます。また、開催以前に危惧されていた協賛金も目標近くに達したことや、有料観覧席についてもほぼ完売したということを知っております。昨年まで不足金が出れば基金を取り崩して間に合いましたが、もう基金はありませんので、不足したとすればぜひ補正予算で対応して下さるようお願いいたします。

### 1、築50年の乙女大橋の架け替えについて

さて、質問に入ります。思川にかかる橋の中で、小山市地内で一番南の橋、乙女大橋でございます。昭和30年にできた石の橋、2度改修されたものの築55年が経過し、幅も狭く、さすがに車で通る際には不安が生じるようになってまいりました。乙女大橋には歩行者専用の橋もあり、こちらに関してはまだ古くもありませんが、車専用に関してはそろそろかけかえの計画を立てなければならぬと思います。もちろん県道でございますので、県の事業であり、県に要望しなければなりません、いかがでしょうか、お伺いいたします。

答弁

◎大久保寿夫市長 小川議員ご質問の土木行政について、築50年の乙女大橋のかけかえについて、かけかえを県に要望できないかについてお答え申し上げます。

乙女大橋は、主要地方道藤岡一乙女線の思川に架設された橋で、長さ306メートル、車道幅員5.5メートルのコンクリート橋で、昭和30年に架設後55年が経過しております。歩行者、自転車の安全確保のため、平成3年には幅員2.5メートルの側道橋が架設されております。管理者であります栃木県においては、老朽化する道路橋の増大に対応するために、全橋を対象に橋梁長寿命化修繕計画を策定し、効率的、効果的に修繕やかけかえを実施していくこととしています。また、平成19年7月に橋梁定期点検を実施しており、重大な損

傷はなかったと聞いております。平成 20 年度、21 年度には橋脚の洗掘防止、橋面の伸縮継ぎ手の補修等の工事を実施しております。一方乙女大橋は、前後の道路から急に幅員が狭くなり、すれ違いに危険な状況にあり、また小山市西部地区洪水ハザードマップにおいて、思川西部地区の避難経路となっていることを初め、通勤、通学等地域の皆様が日常生活を営む上で大変重要な橋であると認識しております。

乙女大橋は、計画的な修繕により一定の機能を有しているものの、昭和 30 年に架設されたもので、完成後 55 年が経過しており、老朽化していくことや、急に幅員が狭くなり、車のすれ違いに危険な状況であることなどから、長寿命化計画における早期かけかえの位置づけと適正な維持管理について要請してまいります。

以上、説明申し上げましたが、よろしくお願いいたします。

## 2. 市民生活行政について

次に、安心安全をうたっている小山市でございますが、交通街路灯及び地域防犯灯についてお伺いいたします。これらの設備については LED に切りかえが必要だと考えますが、お伺いいたします。まず、現在ついている防犯灯、安全灯、主に 20 ワットの蛍光灯でございます。東京電力との契約においては、20 ワットから 40 ワットの契約になっていると思います。これは蛍光灯におけるインバーターの関係で 20 ワット以下の契約ができず、高い電気の基本料を払っております。また、蛍光灯の耐久時間が短いために、自治会からの連絡を待って交換するまでの間、切れたままの防犯灯も少なからずあります。高寿命の LED 電球に切りかえるのが必要ではないでしょうか。蛍光灯から LED に切りかえるに当たってインシャルコストは、蛍光灯に対して機器代を含めて LED が約 2 倍ぐらい高くなります。しかし、それ以外ランニングコストは飛躍的に軽減をされ、メリットばかりになります。

まず、耐久時間、蛍光灯 9,000 時間で約 3 年、LED の電球、寿命時間 5 万時間で約 10 年、これは約 5 倍の耐久性を持っているというふうに言われております。消費電力に関しては、電力会社との契約の変更ができ、20 ワット以下の契約で基本料金と利用料金を合わせて 10 年間で約 40% 削減可能と言われております。さらに、世界的な環境問題として、目標値を掲げている CO2 削減に関しても、30 から 50% 削減可能とされております。インシャルコストとランニングコストを総合的に比較しても、設置後 5 年で蛍光灯と LED の経済性は逆転いたします。経費削減や環境のために地域防犯灯や交通安全灯を LED に切りかえるべきだと思いますが、お伺いいたします。

◎小久保吉雄副市長 ご質問の 2、市民生活行政について、1、交通安全灯及び地域防犯灯についてご答弁申し上げます。

小山市では、市民生活の向上と住みよい地域社会を実現するため、安全で安心なまち

づくりの施策を最優先に実施し、地域学校等の安全を推進するために交通安全灯及び地域防犯灯を設置しておるわけでございます。現在交通安全灯は約 9,200 基、地域防犯灯は約 1,900 基設置されており、今後も市民の安全安心の向上のために設置してまいる所存でございます。ご質問のとおり LED は消費電力が少なく、省エネであり、そのため CO2 排出も少なく、また 10 年以上の長寿命で耐久時間の短い蛍光灯に比べ、約 5 倍使用可能であり、電気料も下がるなど、メリットは大きいと考えておりますが、価格差が大きかったことなどから、蛍光灯タイプを設置したところでございます。しかし、ランニングコストを考えますと、維持費が経済的で性能も向上しており、地球温暖化防止等環境にも配慮していることから、導入の時期ではないかと考えております。今後新設、取りかえが必要なものについては、LED へ切りかえていきたいと考えております。

以上、説明申し上げましたが、よろしく願いいたします。

### 3. 消防行政について

次に、消防団に配備されている可搬式ポンプを軽自動車型消防ポンプ車に切りかえできないかについてお伺いいたします。小山市では可搬式ポンプが配備されている消防分団がございます。これをサイズとしては軽自動車サイズにポンプを搭載した軽自動車型消防ポンプ車に切りかえて配備はできないでしょうか。可搬式が配備されている分団については、例えば道が狭い、あと水防で荷物を積まなければいけないなどの理由がありますが、何と言ってももともと軽自動車ですから、細い道も入って行けますし、わざわざポンプをトラックからおろして搬送する手間もなくなります。現在小山市内の消防分団、12 台ある可搬式ポンプを、この軽自動車型消防ポンプ車を配備していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎宇賀静男消防長 ご質問の 3、消防行政について、(1)、消防団の消防ポンプについて、可搬式ポンプを軽自動車型消防ポンプ車に切りかえできないかについてお答え申し上げます。

小山市消防団に配備されている消防車両は、39 台中可搬式ポンプを普通トラックに積載した小型動力ポンプつき積載車が 11 台であります。このポンプ車は普通トラックをベースにしたキャブオーバーのダブルシートタイプで、定員が 6 人から 8 人乗りとなっております。議員ご提案の軽自動車型消防ポンプ車は、4 人乗りで小回りがきき、狭隘な道路の進入も容易であると考えられます。また、積載された可搬ポンプを車両からおろし、水利部署する活動時間の短縮が図られることも可能であると思います。この軽自動車型消防ポンプ車を導入する際、小山市消防団の要望や各地域の地水利状況、さらには更新計画や購入金額を含めて検討をさせていただきたいと考えております。